

# 【相模の大凧】

大凧の歴史は、古くは、天保年間(1830年頃)からといわれ、本格的に大凧となったのは、明治中期からです。

当初は、個人的に子供の誕生を祝って揚げられていましたが、次第に豊作祈願、さらに若者の意志や希望、国家的な意義を表徴するものなど、個人的なものから、地域的なものへと移り、戦前戦後をとおして、新磯青年団が主催して、毎年新戸、勝坂、下磯部、上磯部、の4会場で行われておりましたが、年とともに移り変わり、昭和44年からは、相模原市の6大観光行事に選定され、前記の4地区が毎年交代で実行委員会を組織し、会場は持ち回りで開催してきました。

しかし、社会情勢の変化などから技術の継承や会場の確保などが危惧されるようになり、現在では「相模の大凧まつり実行委員会」によって開催されております。

大凧の題字は、市民から募集して選定し、原字は、相模原市長が直筆いたしました。大凧には、その年の題字が書かれていますが、東京オリンピックを祝って「祝輪」、平成4年度は新磯小学校百周年を記念して「新磯」、平成5年度は皇太子殿下のご成婚を祝って「慶祝」、平成13年度は新世紀にちなんで「紀風」、平成19年度は皇室の親王誕生のお祝いと合併した相模原市の繁栄を願って「悠風」など、その時々々の世相を反映したものとなっております。そして、今年相模原市の政令指定都市移行を祝うとともに、将来の発展に期待を込めて「祝政」に決まりました。相模の大凧は、昭和52年には、「かながわの民俗芸能50選」に、昭和57年には、「かながわのまつり50選」に選定されています。

平成3年には、国の文化財新指定「記録作成等の措置を構すべき無形の民俗文化財」の中に「関東の大凧揚げ習俗」が選定されました。もちろんその中には、相模の大凧が含まれていることはいうまでもありません。また相模の大凧文化保存会では、伝統文化の保存・継承が認められ、平成16年11月に神奈川文化賞を受賞しました。そして平成22年4月1日には相模原市指定無形民俗文化財に指定されました。



## ◆ 凧の大きさ

新戸8間、勝坂5間、下磯部6間、上磯部6間

## ◆ 大凧の概要(8間)

大きさ 14.5m(8間) 四方	凧揚げに必要な人員
重さ 約950kg	80~100人
綱の長さ 約200m	凧揚げに必要な風速
綱の太さ 直径3~4cm	10~15m



2010 5/4-5 午前10時 ~ 午後4時  
 会場 新戸会場(新戸スポーツ広場) 勝坂会場(新戸スポーツ広場)  
 下磯部会場(磯部頭首工下流) 上磯部会場(三段の滝下広場)

各会場間無料巡回バス運行 巡回バス 相武台下駅 > 大凧センター > 上磯部会場 > 下磯部会場 > 新戸・勝坂会場 > 相武台下駅

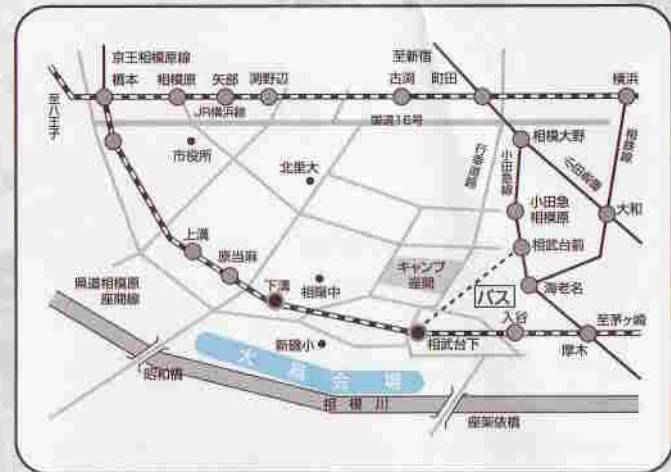
主催/相模の大凧まつり実行委員会  
 後援/相模原市、相模原市観光協会、神奈川県、(社)神奈川県観光協会、相模原商工会議所、(社)相模原法人会、  
 (財)相模原市都市整備公社、新磯地区自治会連合会、新磯観光協会  
 協賛/相模原市印刷広告協同組合、(有)誠観光



# 日本一 相模の大凧まつり

祝 政令指定都市・相模原誕生

## 会場案内図



### おもな交通機関

#### 新戸・勝坂会場 (新戸スポーツ広場)

- 小田急線 相武台前駅下車
- 神奈中バス 相武台下駅下車徒歩15分
- JR相模線 相武台下駅下車徒歩15分

#### 下磯部会場

- 小田急線 相武台前駅下車
- 神奈中バス 磯部バス停下車徒歩10分
- JR相模線 相武台下駅下車
- 神奈中バス 磯部バス停下車徒歩10分

#### 上磯部会場

- JR相模線 下溝駅下車徒歩5分
- 神奈中バス 下溝バス停下車徒歩5分

各会場間は徒歩および巡回バスにて移動できます。(巡回バスは無料です)

**巡回バス** 相武台下駅 → 大凧センター → 上磯部会場 → 下磯部会場 → 新戸・勝坂会場 → 相武台下駅

各駐車場が狭いので出来るだけ公共交通機関を御利用されますようお願いください。

(三段の瀧下広場) ——— (磯部頭首工下流) ——— (新戸スポーツ広場)